

東日本大震災の影響で産業界に沈滞ムードが漂う中、国内市場をターゲットにして業績を伸ばしている電子部品商社が明光電子（横浜市港北区）だ。電子



明光電子社長  
（神奈川県産業人クラブ所属）

十川 正明氏に聞く

総局長・星川博樹

「浮き沈みの激しい業界で業績を順調に伸ばしています。」

「会社を設立して32年。バブルが弾けた時は厳しか

かし、DRAMの販売先から売り上げを回収できずに自社ビルなどの資金も合わせて10億円以上の借金がありました」

「今は成長軌道にしっかりと乗っています。光電子の事業は国内が中心です。」

「これからの団塊世代が退けば、人口が減り、民生品市場は縮小する。それと同時に社会インフラが大幅に変わることになる。電気自動車、スマートグリッドが普及し、エネルギーのあり方も見直しが進む。需要が確実にあるという業界を抑えれば仕事はある。それが環境関連だ」

## 環境関連ターゲットに

### 電子部品 国内市場に資源集中

「DRAMの借金が返済できなかった。1990年代の前半に福岡市に自宅を新築し、さらに初めて自社ビルを購入した。事業も順調でDRAM（記憶保持動作が必要な随時書き込み読み出しメモリー）も多く扱った。し

「DRAMの借金が返済できなかったと思ったら、リーマン・ショックがきて、人員整理をすることになった。ただ昨年から半導体の需要が旺盛で受注が回復し、今8月期は黒字を確保できそ

「民生品を引っ張っているのは海外市場だが、国内の産業用は半導体も含め堅調だ。当社の場合、発光ダイオード（LED）照明や太陽光発電関連、スマートメーター、さらに電気スタ

「ただ競争が激しくなることも確かです。『同業者が避ける小ロットの仕事積極的に取り込んでいます。さらに各業界のトップ企業と付き合い合うことが重要だ。トップと付き合い合うことで商売の間口が広がる。商社として各業界のトップメーカーの代理店、何でも屋としての顔を大事にしている」

73年（昭48）同志社大工卒、同年油谷重工（現コベルコ建機）入社。76年大阪常盤商行入社、77年西日本常盤商行。79年明光電子設立。05年神奈川県産業人クラブ入会。趣味はゴルフ。広島県出身、63歳。

「環境関連をターゲット